

事務事業名		田中正造未公開書簡編纂事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4	豊かな心を育む教育・文化づくり			担当組織	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館
	政策	2	生涯にわたり学びのあるまちづくり			担当係		担当課長名	山口明良	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進			新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1	地域の歴史・文化の理解の促進			実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	事業区分	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	実施方法	実施方法		直営		事業分類		その他内部事務事業		
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H25年度～H30年度		根拠法令 条例等	リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)									
田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、没後百年となる平成25年度から30年度までの期間で、新発見や未公開の田中正造書簡等の調査を行い、30年に刊行し、正造翁の偉業を顕彰する。 予算は、平成30年度のみ編纂資料の刊行を行うため、3000千円を計画している。			未公開書簡等の調査 ・博物館購入資料 … 書幅1点		活動指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込)	28年度 (見込)	29年度 (見込)
			田中正造未公開書簡等の資料数		点		9	4	10			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
正造関係博物館収蔵資料			対象指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込)	28年度 (見込)	29年度 (見込)		
			正造関係博物館収蔵資料		点	14,150	14,154	14,164				
目的												
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (目標)	28年度 (目標)	29年度 (目標)		
正造ゆかりの博物館として、正造関係の未公開書簡等資料を継続的に調査し、正造の思想、行動を探究する。			田中正造未公開書簡等の資料数		点	9	4	10				
④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)												
地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育んでもらう。			上位成果指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (目標)	28年度 (目標)	29年度 (目標)		
			佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%	91.6	93.1	93.5	94.0	94.5		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円								
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件	正職員従事人数	人	2	2	2				
費	のべ業務時間	時間	50	50	50					
	人件費計(B)	千円	195	197	197	0	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	195	197	197	0	0			

事務事業名	田中正造未公開書簡編纂事業	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館	担当係	
-------	---------------	-----	-------	-----	-------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成20年3月に岩波書店から発行された『田中正造 未発表書簡集』以降の未公開書簡について、いくつか発見されているものがあるため、没後百年顕彰事業の一環として今後も調査を行い、博物館においてまとめたものを刊行することで、正造の偉業を顕彰する。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきているため、正造関係の未公開書簡等をまとめ刊行することは、顕彰事業を行ううえで重要となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	広報さの、新聞等で正造関係資料について呼びかけたところ、少なからず情報提供が実際に来ている。また、この事業は、市民、市議会議員等で構成する田中正造翁没後百年顕彰事業実行委員会で、承認を受けた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	広報紙により資料の情報収集を行なった。資料の判読については古文会の協力を得ながら行っている。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 郷土の偉人である田中正造の未公開書簡を調査し、まとめたものを刊行することができれば、地域の歴史に触れることが増え、市内外の人々にますます正造を含めた佐野市の歴史を知ってもらえらるとともに、市民の郷土への誇りと愛着心を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 正造翁の偉業を永く後世に伝えるためには、正造ゆかりの博物館として、市が中心となって調査を行うことが必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 郷土博物館は、田中正造ゆかりの博物館として従来から正造の顕彰を図っており、没後百年を契機として田中正造の貴重な資料を調査し、後世に伝えることは、地域に誇りと愛着を持つ人々を育成にも繋がるため、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 正造関係未公開書簡等を積極的に収集し、調査・研究することにより、正造翁の偉業を広めることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	事業費の削減余地がある	理由・改善案 当面は事業費が不要であるが、刊行を行う平成30年度には事業費が必要となる。予算額に応じて、ページ数を調整するなど、刊行の方法を検討することはできるものと考えられる。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担を見直す必要がある	理由・改善案 現在は受益者負担はないが、編纂終了後は博物館において有償頒布する予定のため、刊行にあたっては適正な受益者負担を求める必要がある。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行うことが必要であるが、平成30年度に調査内容を取りまとめ刊行できれば、一定の成果として事業終了となる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																				
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 未公開書簡等の収集(調査・研究)にあたっては、今後とも広報誌や新聞を通してPRし、情報の収集に務める。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上		○		維持			×	低下		×	×	企画展の開催や学校利用等の通常業務の合間に、未公開書簡等の調査・研究を行うには、現在の学芸員の数では少なすぎる。資料の解読等に際しては、古文会などの協力を得ながら実施する。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上		○																				
維持			×																			
低下		×	×																			